

湯河原中学校給食検討委員会（第7回） 会議概要

- 1 日時 令和4年5月11日（水）
- 2 場所 防災コミュニティセンター 2階206会議室
- 3 委員 中学校校長、小学校長の代表、中学校PTA会長、中学校PTA副会長、小学校PTA会長代表、小学校栄養教諭、中学校養護教諭
参事兼学校教育課長

案件（1）

湯河原中学校給食のあり方について

事務局より

給食実施の経緯

湯河原中学校の給食導入については、平成26年から、3回にわたる児童・生徒及び保護者を対象としたアンケート調査や給食検討委員会、議会特別委員会、議会常任委員会、教育委員会、教育総合会議などで検討・協議を行ってきました。令和2年1月に行ったアンケートでは、自校調理方式で完全給食を実施することに対し回答者全体の82.6%が賛成（保護者の賛成は93.9%、児童生徒の賛成は57.8%）の結果を得て、自校調理方式で更なる検討をすることとしました。

令和元年11月に執行した給食施設等調査業務委託は、令和2年5月に調査報告書が提出されました。当該報告書では、計画食数を550食とし中学校敷地内に給食施設を整備する方法として10案が示され、その中でテニスコート西側敷地に整備する案が最も可能性が高いと報告されています。

次いで令和2年12月に給食施設等基本設計業務委託に着手しましたが、既存校舎に給食室を増築する設計案は既存校舎全体に現行の建築基準法が適用され、相当の期間・費用がかかるなどの新たな課題が生じました。この課題整理のため、業務委託期間などの変更契約をし、既存校舎と給食室を分離し、渡り廊下でつなぐ方法で再考することとなりました。

令和4年2月に基本設計業務委託が終了し、報告書が提出されました。報告書では既存校舎の延焼の恐れのある部分の改修（耐火窓・耐火フレーム）エレベーター・配膳室等の改修面積の増などにより整備費が大幅に膨れ9億円と提示されました。この金額に、今一度検討することも必要ではないかとの意見もいただいています。

再検討について

再検討にあたり、将来の児童生徒数を見こし、計画食数550食を減らし、給食室を減築し、案①中学校敷地内の別の場所に整備する、案②中学校敷地外の町有地に整備する、または、案③学校のあり方と併せて検討し、その方向性が決まるまでは新たに別の方式を検討するなどが考えられます。

事務局としては、今までの検討経過を踏まえ、自校給食を実施したいと考えますが、短期間で決めるより、学校のあり方の検討と併せ方向性が定まるまでは新たな配膳方式をとり、早期に中学校給食を開始したいと思えます。

質問・意見等

委員

「資料4ページ、議会常任委員会では、一旦立ち止まって検討が必要ではないかとの意見がありました、とのことですが、これは費用的なことが要因でしょうか。また、案3の方向性が定まるまでの新たな配膳方式というのは何でしょうか？」

事務局

「金銭的なことが大きいと思います。また、学校のあり方検討にあわせて方向性を決めていくとなると、給食を提供するまでにかなりの年数がかかってしまいます。早期に給食を提供するためには、暫定的でも別の方式で提供するのはどうかと考えています。」

委員

「暫定的な別の方式のイメージがわからないのですが、建物を建てて給食を作る以外の方法ですか。」

事務局

「そうです。先程の説明のとおり、別の町有地に給食施設を建てるとしたら、また、調査委託、基本設計等と時間がかかります。給食を切望されている方がいられるのにまた、何年も待たせてしまうこととなります。方向性が決まるまでは何か別の方法を考えたいということです。」

委員

「実現は難しいということでしたが、例えば親子式の給食などでしょうか。またはデリバリー給食や購入などでしょうか。」

副委員長

「もう一つの資料はそれに関したものでしょうか。他の市町村の給食の方法、あり方について書かれているようです。」

事務局

「資料は、神奈川県内の中学校給食の提供方式について調べたものです。神奈川県は全国的にみて、中学校給食整備が遅れている県ですが、それでも近年、中学校給食の導入が進んできました。そして、1ページ目の表のように、最近給食を導入している市町では、センター方式、デリバリー方式をとるところが多いです。それは、財政的なこと、初期費用が少なく導入できる、早期に実施しやすいなどのメリットを考えてのことだと思います。」

2枚目以降は、いくつかの特徴ある市町の様子を簡単にまとめたものです。鎌倉市ですが、ランチボックスにあらかじめ盛り付けられたデリバリー方式の給食提供方法です。食品衛生上、おかずは冷まさないといけないが、別容器に入れられたご飯と汁物は温かい状態で提供されます。選択制ですが、県内で最も高い喫食率で推移し、好評を得ているようです。下の表は業者に調理してもらった契約単価です。逗子市も、デリバリー式の給食をしていますが、選択制ではありません。ただ、アレルギー対応ができず、アレルギーを理由に好きな時だけ注文するという抜け道ができてしまったそうです。全員給食を目指し、今年9月からランチボックス方式ではなく食缶方式に変えるとのこと。秦野市はセンター給食で

すが、民間業者が建てた給食施設を秦野市が借りて運用する方式です。葉山町はセンター給食の予定でしたが、財政的な理由から停止していました。サウンディング型市場調査の結果、親子方式で来年4月、給食開始の予定です。大磯町はデリバリー給食をしていましたが、味が薄い、冷たい等の理由で残菜が多い、異物混入事故が多かったとの理由で業者との契約を解除、休止状態です。その後、大磯町は自校調理方式を方針としましたが財政的な問題で進んでいません。お弁当を希望する方に、藤沢市湘南学園の保護者さんが作られているお弁当を配達しているそうです。1食500円と聞いています。最後に伊勢原市ですが、ランチボックスのデリバリー方式です。(厚生労働省の定めた大量調理マニュアルでは調理後10℃以下または65℃以上にしなければいけないのですが)調理後一度冷ましたものを中学校の配膳室で、電子レンジの仕組みで再加熱するものです。神奈川県初の方式です。(保護者負担の)1食単価はだいたい、280円～330円位ようです。」

副委員長

「今のお話を受けて、学校給食のあり方について何か意見はありますか。」

委員

「今後の児童生徒数を考えると、中学校に給食室が必要なのかなと若干、感じる部分もあります。できるものならやってみたい、やってあげたいという思いで自分もここに参加してきましたが、すぐに給食を実施するための他の市町の方法も府に落ちない気がします。例えば、給食が実施できるまでの間、町から保護者に現金を支給するという方法が納得されるのではないかと思います。ほぼ白紙から検討するのであれば他の方法も、他の場所も考えてみたいと思います。検討の当初は町の他の場所というのもあったのですか。中学校に隣接するところから始めているのですか。」

委員

「平成26年にアンケートを実施し、自校調理方式で給食を実施しようというご意見が一番多く、自校調理方式で検討を進めております。」

委員

「理想ですね。」

委員

「新たな配膳方式と表現していますが要するにデリバリー方式です。アンケートではデリバリー方式を希望される方は少なく、これを受けてどこに給食室を建てるのが良いのか調査業務委託し検討してきました。この調査業務委託では、親子方式、中学校の敷地10か所について調査しています。その中で、テニスコート西側の敷地が現在、何にも使われておらず、食材の納入、搬入経路も生徒の通学路と分けることができ、最も可能性が高いとされました。

事務局では、何とか、自校調理方式で給食をしたいと考えているのですが、この給食検討会でいただいた意見を教育委員会で報告、検討し、議会に説明するなど、理解を得る手続きも必要です。初めに質問されたように、議会の委員会でも、一旦立ち止まって、再検討することも必要との意見をいただいています。どのような方法がよいのか検討する間にどんどん時間が過ぎていき、なかなか給食実施が進まないということになります。給食を実施してほ

しいという署名もいただいています。早期に給食を実施したいのですが、どこに給食室をと
いうところから始めるとかなりの時間がかかります。一からの検討になってしまいますの
で、その検討の間だけ、早期に実施できる方式で給食を実施したいということです。事務局
としては、決してデリバリー給食を進めようというものではありません。一方、児童数、生
徒数の減少、学校の老朽化もあり、学校のあり方、学校の適正な配置も考えていかなければ
なりません。将来的には学校の建替えの検討も必要になります。また、センター方式ですと
運搬についても考えなければなりません。学校のあり方の検討をしておりますのでその方向
性が決まるまでの間、早期に導入できる方法はそれしかないのかなと考えています。」

委員

「デリバリーの場合、湯河原町民のお金が、委託業者に支払われる、よそに出ていくことにな
ります。業者が町内にあり、お金が町内で循環しているのが理想です。デリバリーであれば、小学校には給食室があるので、湯河原小学校から湯河原小学校卒業の中学生の分をデリ
バリーする、湯河原小学校には調理員を増やすなどの方法であれば、雇用も増え、地域への
恩恵もあると思います。つなぎであっても柔軟な対応ができると思います。」

事務局

「湯河原小学校も吉浜小学校の給食室も十分な広さがあるとは言い難いです。例えば、吉浜
小学校は、給食室前の廊下に牛乳保冷庫、保存食用冷凍庫等が置かれ、廊下も給食室として
運用しているのが実情です。かつて、湯河原小学校は1500食、吉浜小学校でも900食
の給食を作っていましたが、現行の学校給食衛生管理基準からみると不適當なものです。学
校給食は全て加熱調理したものを提供しますが、加熱調理後2時間以内に提供しなければな
りません。現在の調理機器で食数を増やし、かつ運搬するとなると、加熱後2時間以内の提
供は難しいと思われれます。」

委員

「今後、小学校の改修、建替えも検討されるのでしょうか。でしたら、それも見込んで、湯河
原小学校、吉浜小学校、東台福浦小学校の給食室の改修を先行したらいいのではないでしょ
うか。」

委員

「中学校の給食室の設計の中でも出てきているのですが、給食室を広げるために増築をしよ
うとすると、既存の校舎にも現行の建築基準法などが適用されることになり、莫大な費用と
期間がかかると思われれます。」

委員

「では逆に、中学校の給食室整備を小学校の分まで賄えるようにしての配送という可能性も
考えるのもあると思います。色々な角度から考えてみることも必要なのかなと思います。
中学校だけの給食ではなくて小学校も含めて、精査していったらいいのかなと思います。」

副委員長

「周りの人にも意見を聞いてきました。前湯河原中学校PTA会長は、中学校の敷地に給食
室を整備することには反対しています。今後児童数・生徒数が減少する中、中学校が今の場
所にあり続けるのか、小学校の数が減れば中学校も移転するかもしれない、そもそも、現中

学校の敷地は海に近く、津波の被害も懸念される、真鶴町との統合なども考えられる等の理由です。11年度には、児童・生徒数が半数近くに減るのに、学校のあり方が決まらなければ給食室を造る、造らないは、決められない、現中学校の敷地に建てるのは難しいと考えるようになりました。町としてはどうですか。」

委員

「学校のあり方の中で、子どもの数が減少する中、今の配置でいいのか、色々な角度から検討しています。それを今年度中にまとめ、各学校の保護者の方、各区会、地域の方にご意見をいただきながら集約していき、最終的に令和6年度中には学校のあり方を策定したいと計画しています。10年後の学校のあり方についてというテーマで昨年からは検討を始めました。」

委員

「今後、町の施策も併せ、子どもの数の減少を食い止め、または増える可能性もあるので、460人位の数を維持しているのであれば、中学校に給食室を造るのもいいと思います。ただ、半数にも減っていくのであれば給食室を造るのは町の負担になってしまうのではないのでしょうか。それであれば、小学校に力を入れて、小学校で中学校の教育もできるような学校を造ったらいいと思います。」

委員

「小中一貫校などの検討も考えられますね。」

委員

「そうですね。同じ敷地に小学校、中学校があれば、保護者も共通であったり、いろいろ大きな構想ができそうです。」

副委員長

「方向性を決めていきたいですね。」

委員

「はい。でも今日、無理であれば、また別日でもかまいません。今、小学校の話がでましたので、参考までに言いますと、湯河原小学校の建築経過年数が、A棟、B棟、C棟で46年、48年、50年位です。一番古いのが吉浜小学校で、北棟、中棟、南棟で、50年、53年、52年の年数が経っています。長寿命化しても、あと、50年持たせるのは難しいのではないかと思います。」

あと、生徒数の推移ですが、データが少し、変わってまして、令和4年で中学校の生徒数は437人です。3小学校の児童数を単純に動かしていくと、令和10年で316人になると推計しています。現在から100人位減っていくことになります。」

副委員

「意見をまとめていきたいと思います。今すぐに、中学校に、自校式の給食室を建てるという考えはないということでしょうか。皆さん、どうでしょうか。」

委員

「金額を見たときに、すごく高いなと思いました。給食室というのは、やはり特殊なのでしょうか。9億円かかるのであれば、私も、小学校を優先して建替えるなどして、給食室をも

っと広くし、中学校に運ぶ方法に持っていけたらと思います。今、現在での考えです。」

委員

「(お母さん方の)、働きながらお弁当を作るのは大変だという声は多いです。いろいろな事情もあってお弁当が作れない方もいらっしゃると思います。議員さんも動いてくれているのですが、中学校給食がなかなか進まないの、試験的に、デリバリーを進めてみるのはどうでしょうか。何年もこのような状態で進まない、町にお金がないというのであれば、早く導入できる方法を試行してみるのもいいと思います。子どものおいしい、おいしくないはひとまずおいて、主婦の立場で見ると、親の介護などの事情もあります。体調が悪いときなども利用できれば助かります。毎日コンビニの弁当では飽きるでしょうし、お金もかかります。ぜひ、すぐにでも、試験的にでも実施できないでしょうか。」

委員

「給食室をどのようにするか検討する間、その方向で何とか実施できないかというのが事務局案です。給食を、校内にどのように運び、どこに置くのかを考えると、若干の中学校の改修も必要になってきます。上階の教室まで運ぶのにエレベーターが必要なのかも検討課題です。試験的に、子ども達が自分で運ぶというのであれば、比較的、実現しやすいかと思えます。基本設計の中ではエレベーター設置工事も入っていますが、エレベーター設置をするとかなりの金額と工事期間がかかると思われます。」

委員

「娘は小田原の中学校に通っていますが、階段で給食を運んでいます。センターから届けられたコンテナから食缶や食器を出して運んでいます。」

委員

「階段もありますが、自分の中学生当時を振り返ってもこぼしたことなどないです。娘もこぼしたことなどないと言います。先日、30何人分の給食の配膳を8分ででき、担任の先生に褒められたと話していました。中学生にもなれば、自分で考えて、準備や片付けができます。中学校の先生は部活の指導があるので昼食が短時間で済むお弁当を好み、給食を望まないという声も聴きます。でも、栄養教諭の立場で言わせてもらおうと、成長期の、からだをつくる大切な時期に栄養を考えた給食を提供することは意味があると思います。」

委員

「エレベーター設置などの大きな改修がなければ、業者等の選定や事務的な手続もありますが、実施しやすいと思います。」

委員

「今年度中は無理ですか？」

委員

「今年度中は難しいと思います。」

事務局

「給食として実施する以上、単純に業者さんの弁当を頼むというものではないです。町の栄養士が栄養価を考えて献立をたて、なるべく地場産物を使って提供するものです。郷土料理や行事食、季節等にも配慮し、食育を目的として実施するものです。予算のこともあります

し、すぐに実施は難しいです。

ただ、デリバリーであっても、学校給食として提供することができたら、就学援助を受けている方に給食費の援助をすることができます。中学校には40名近く就学援助を受けている方がいらっしゃると思います。今は保護者の方が一生懸命、お子さんのためにお弁当を用意してくださっていますが、給食になれば助けてあげられるとは考えています。」

副委員長

「他にはどうでしょうか。」

委員

「小学校でも高学年になれば、自分たちで給食の支度も片づけもできるので、中学生であれば、簡単にできると思います。ただ今まで自分は、小学校は給食、中学校はお弁当という中で育ってきて、いいなと思ってきました。自分は母子家庭で、中学校になって部活動の朝練もありました。母は遅くまで働いていたので朝に、お弁当を持たせることはできませんでした。しかし、11時までには下駄箱にお弁当を届けてくれました。みんなとは違うけれど、温かいお弁当を食べることができました。それも一つのアイデアであり、柔軟な対応だったと思います、それを周りの人も認めてくれる環境ができていました。みんな一緒だからいいこともあるし、みんな違うからやりやすいこともあります。小学校はみんなと一緒にいうことが良いと思いますが、中学校では自主性を、多様性を認めあうことが良いと考えます。親子の絆を中心において、各家庭のやりやすい形をとるのが今のお弁当の現状ではないかなと思います。

ただ、先ほどのお話で、就学援助を受けられるというのは魅力的だと思います。他のアプローチもできたらいいなと思います。」

副委員長

「私の個人的な意見ですが、給食室をすぐに造ることは無理なので、デリバリーというか、親子式の給食ができないかと思い、教育委員会にも相談させてもらいに行きました。中学校では、お弁当を希望される方もいられるので、入口としては、希望制で始め、小学校の給食室で作っていただいて運ぶのが良いのではと考えています。50食、60食から始めて、それがよければ、徐々に増えていくのではないのでしょうか。ただ、運ぶにあたってとか、諸条件があると伺っているのでそこを整備していかなければいけないとは思いますが。とりあえず、希望制で始め、小学校からの親子方式が理想です。私の周りにも、給食を望む方も多いです。できれば、給食ができたらいいなと思います。

町の方針が決まって、給食室を造るのか、親子式の給食をするのか等はこの先の検討になるのですが、何か始めなければ進みません。給食検討委員会としては、事務局提案の第3案もありますし、調査結果・方針が出るまでは、デリバリーなど色々な給食の提供方法を検討し、早期に実施する方向でよいのでしょうか。ではがんばりましょう。知恵を出し合っていきましょう。皆さん、何か他にありますか。無いようですので、事務局からありますか。」

報告事項（1）

湯河原中学校給食検討委員会会議録(第6回)について

事務局より

「前回の第6回の会議録です。ご覧いただき、言い回しなど修正される点がありましたらご連絡ください。1週間以内をお願いします。」

報告事項(2)

その他

委員より

「自分の経験してきたところで参考になればとお話しします。教員生活のスタートは養護学校で、自校給食でとてもおいしかったです。その後、今は無くなってしまったのですが松田町にあった寄(やどりぎ)の全校で60名位の小規模校に赴任しました。小中一緒の給食室でした。中学生が小学校の給食室まで長い廊下を通り給食を取りに行っていました。給食は最高によかったのですが、雨風が強いときは、給食に入ってしまうのではと心配するほどでした。昔のことなのですが、通路はしっかり造らないと危険だと感じました。その後小田原に行ったのですが白鷗中学校は4階建て、4階は1年生でした。一時、泉中学校にもいたのですが泉中学校は3年生が上階で、給食のことも考えて、体の大きい3年生が上の階になっているのかと思いました。箱根では(統合前のお弁当のときも、給食も経験しました。地域の保護者の方の要望は断然、給食です。温かいし、おいしいし、先ほど出ました地産地消、地元のものを知ってもらう、季節のものというのは、子どもに非常に意識づけされます。お弁当のときは、朝練があつたりすると、保護者の方が苦勞されていたように思います。給食のメリットはたくさんあるのですが、デメリットは何かというと、アレルギー対応です。箱根中学校に居るとき、栄養士さんが倒れてしまったことがあったのですが、一人ひとりの子どもの対応を確認し、除去または代替しているのを見て大変だなと感じました。また、箱根にもたくさんパン屋さんがあるのに、給食用のパンは給食会で配合も決められていて、小田原の業者からしか納品されないのだと知りました。先ほどのお話にもあったように地域の業者から購入できるといいなと思いました。給食には賛否いろいろあると思いますが、最終的には金額といろいろなもの見合うのかということがテーマなのかな、そうしたことも踏まえて検討していくのかなと感じました。」

副委員長より

「給食検討委員会を終了させていただきます。議事進行にご協力いただきありがとうございます。次回の会議日程はあらためて事務局が調整していただけますか。」

事務局

「はい。ご連絡します。新たな配膳方式を検討させていただきます。」